

キャリアス就活
[career+]

2021卒 理系学生の就職活動（専攻分野別）

2020年9月

株式会社ディスコ キャリタスリサーチ

調査概要

<調査概要>

2021年卒の理系学生の就職活動に関する調査データの中から主なものを抜粋し、専攻分野（機械・電気系／情報系／化学・農学・薬学系）、あるいは文系学生との比較などを通して、その特徴を分析した。

調査対象 : 2021年3月に卒業予定の大学生（理系は大学院修士課程含む）

サンプリング : キャリタス就活2021 学生モニター

調査方法 : インターネット調査法

	第5回調査	第6回調査	第7回調査	第8回調査	第9回調査	第10回調査	インターンシップ 特別調査
調査時期	2020年3月	2020年4月	2020年5月	2020年6月	2020年7月	2020年8月	2020年3月
回答者数	1,393人	1,299人	1,212人	1,204人	1,230人	1,199人	794人
理系全体	531人	497人	463人	470人	479人	456人	325人
機械・電気系	127人	120人	120人	112人	120人	117人	84人
情報系	65人	56人	59人	58人	60人	59人	35人
化学・農学・薬学系	149人	138人	122人	130人	135人	124人	94人

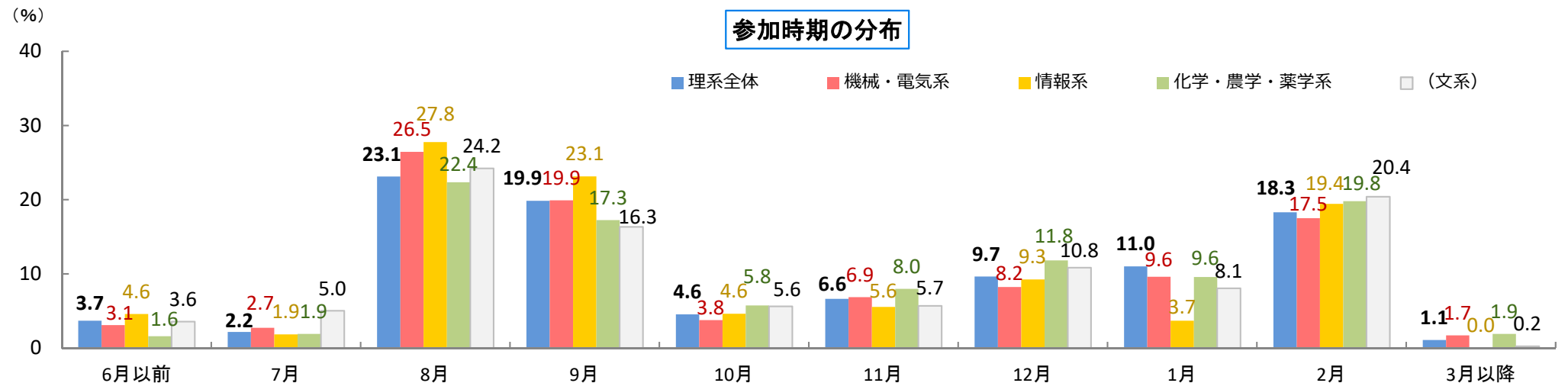
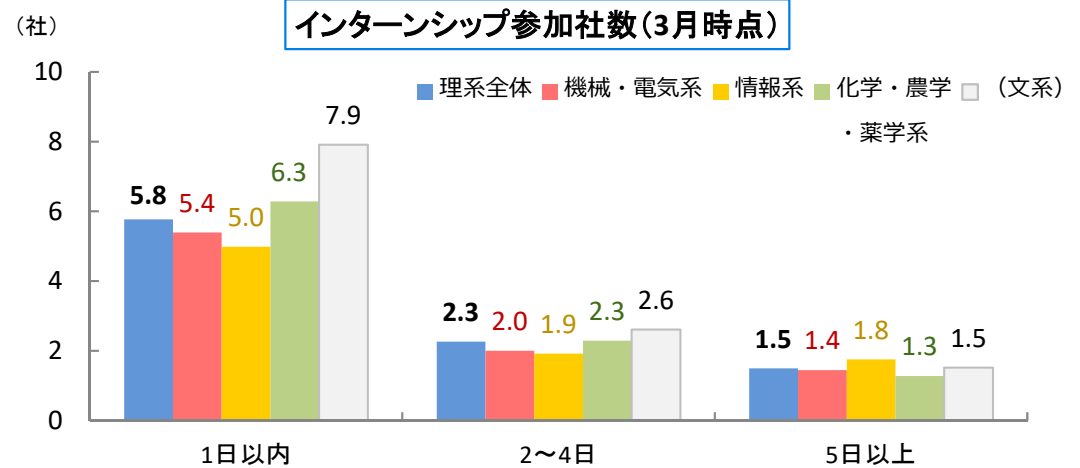
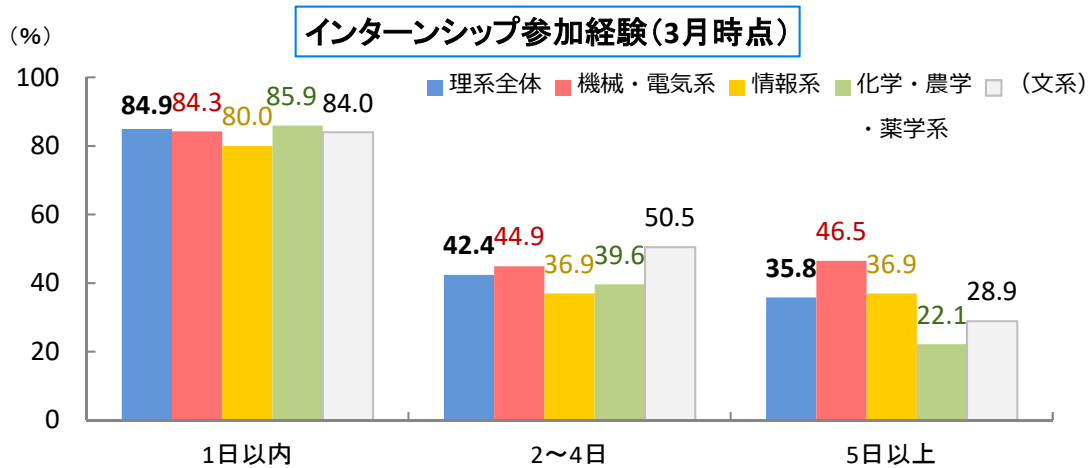
※上記以外の専攻系統も「理系全体」に含まれる。そのため、3専攻系統の人数の合計は「理系全体」と一致しない。

<目次>

1. インターンシップ参加状況	P3	8. 内定率の推移	P10
2. インターンシップで重視すること	P4	9. 就職決定業界	P11
3. インターンシップ後のアプローチや優遇	P5	10. 就職決定職種、決定企業規模	P12
4. 業界研究を始めた時期	P6	11. 就職決定企業への応募ルート、専攻分野との関連	P13
5. 企業探しに有益な情報源	P7	12. 就職決定企業で働きたいと思ったタイミング	P14
6. 自分にとって「働き甲斐のある企業」	P8	13. 就職決定企業のインターンシップ参加状況	P15
7. 就職活動量	P9	14. 就職市場の見方（売り手市場観）	P16

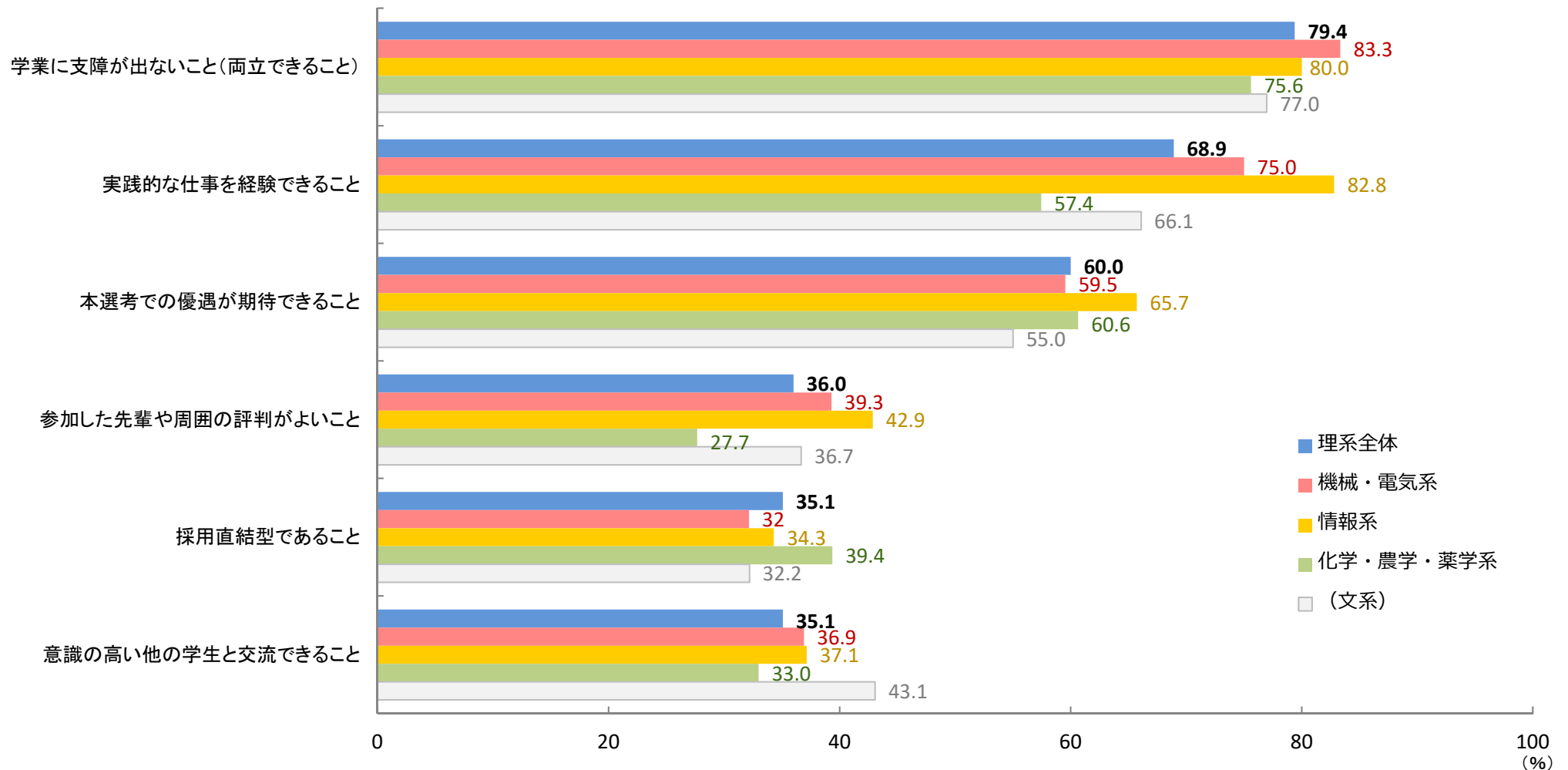
1. インターンシップ参加状況

- 1日以内のプログラムは、いずれの属性も8割以上が参加経験を持つ。機械・電気系は5日以上への参加率が他の専攻より高い(46.5%)。
- 参加社数は1日以内のプログラムにおいて文理差が大きく、文系(7.9社)より2社以上少ない(5.8社)。
- 参加時期のピークはいずれの属性も8月。情報系は9月までで約6割(57.4%)を占め、早い時期の参加割合が高いのが特徴的。



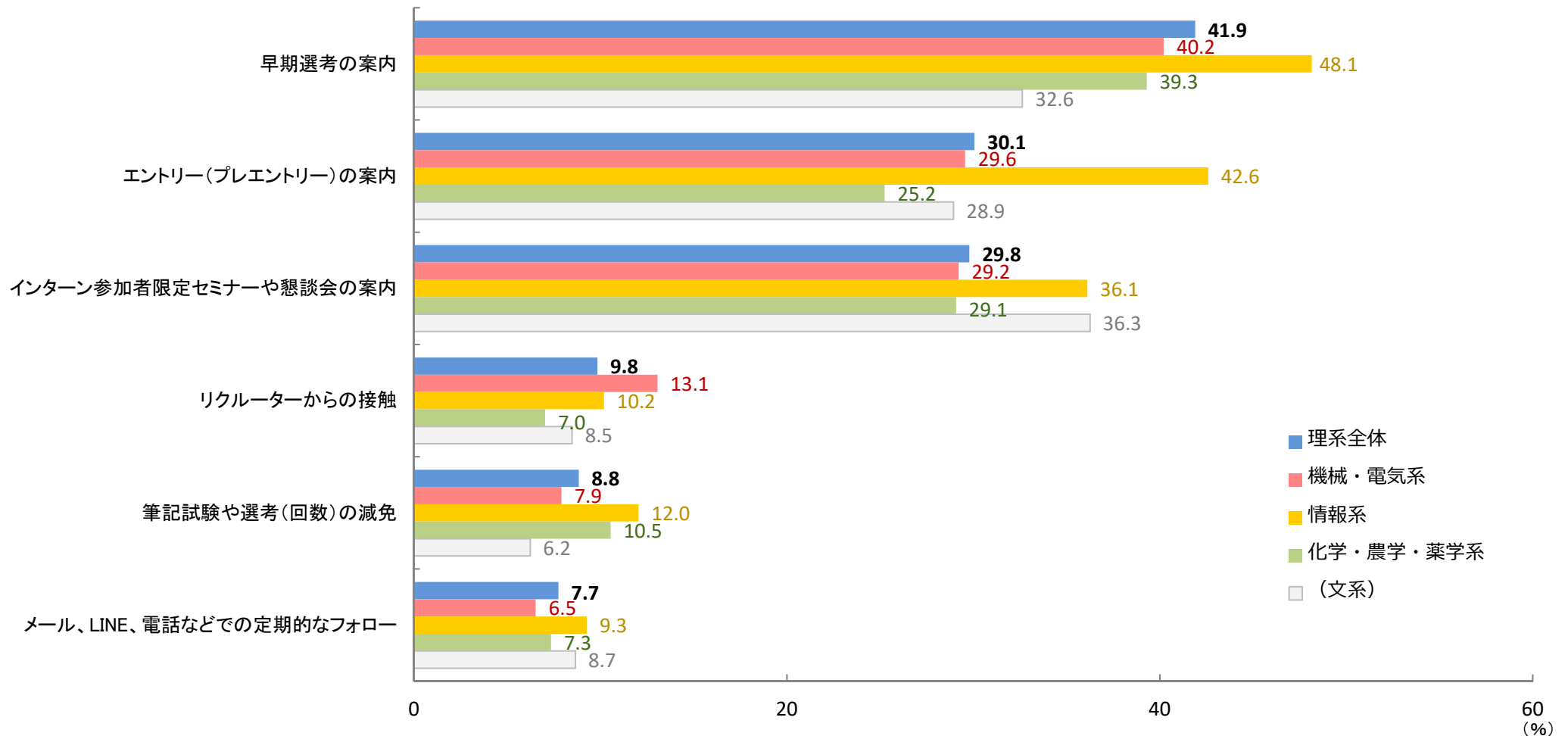
2. インターンシップで重視すること

- 応募時に重視した点は、文理とも「学業に支障が出ないこと」が8割近い。機械・電気系は8割を超え、さらに高い(83.3%)
- 情報系は「実践的な仕事を経験できること」や「本選考での優遇が期待できる」など、就職を意識してインターン先を選ぶ傾向が強い。



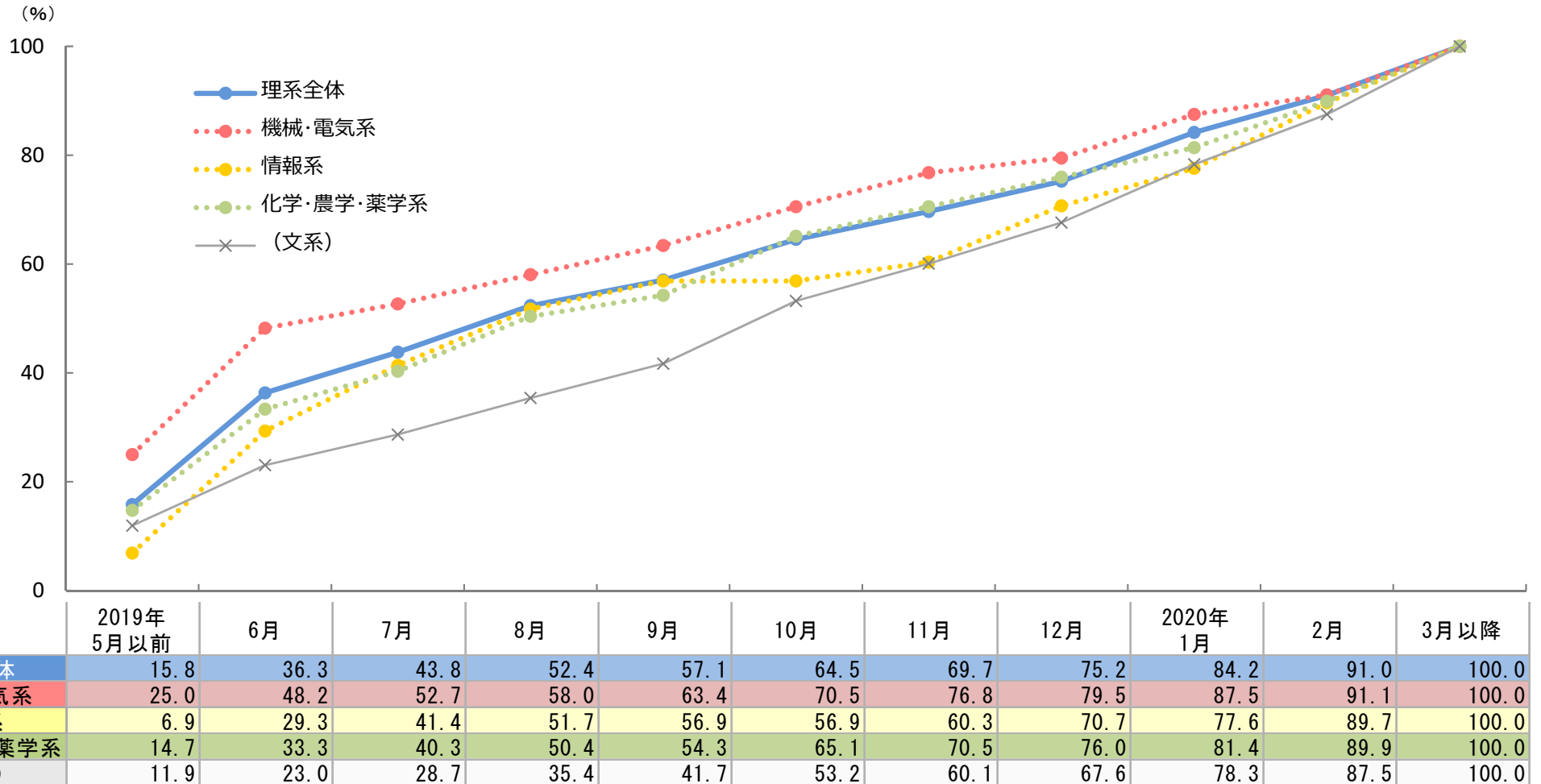
3. インターンシップ後のアプローチや優遇

- 理系は「早期選考の案内」が4割を超え(41.9%)、文系(32.6%)との差は9ポイント以上。
- 情報系は「早期選考の案内」や「エントリーの案内」、「限定セミナーや懇談会の案内」など、他の専攻学生より高い項目が多く、参加後に様々なアプローチを受けた様子が見て取れる。



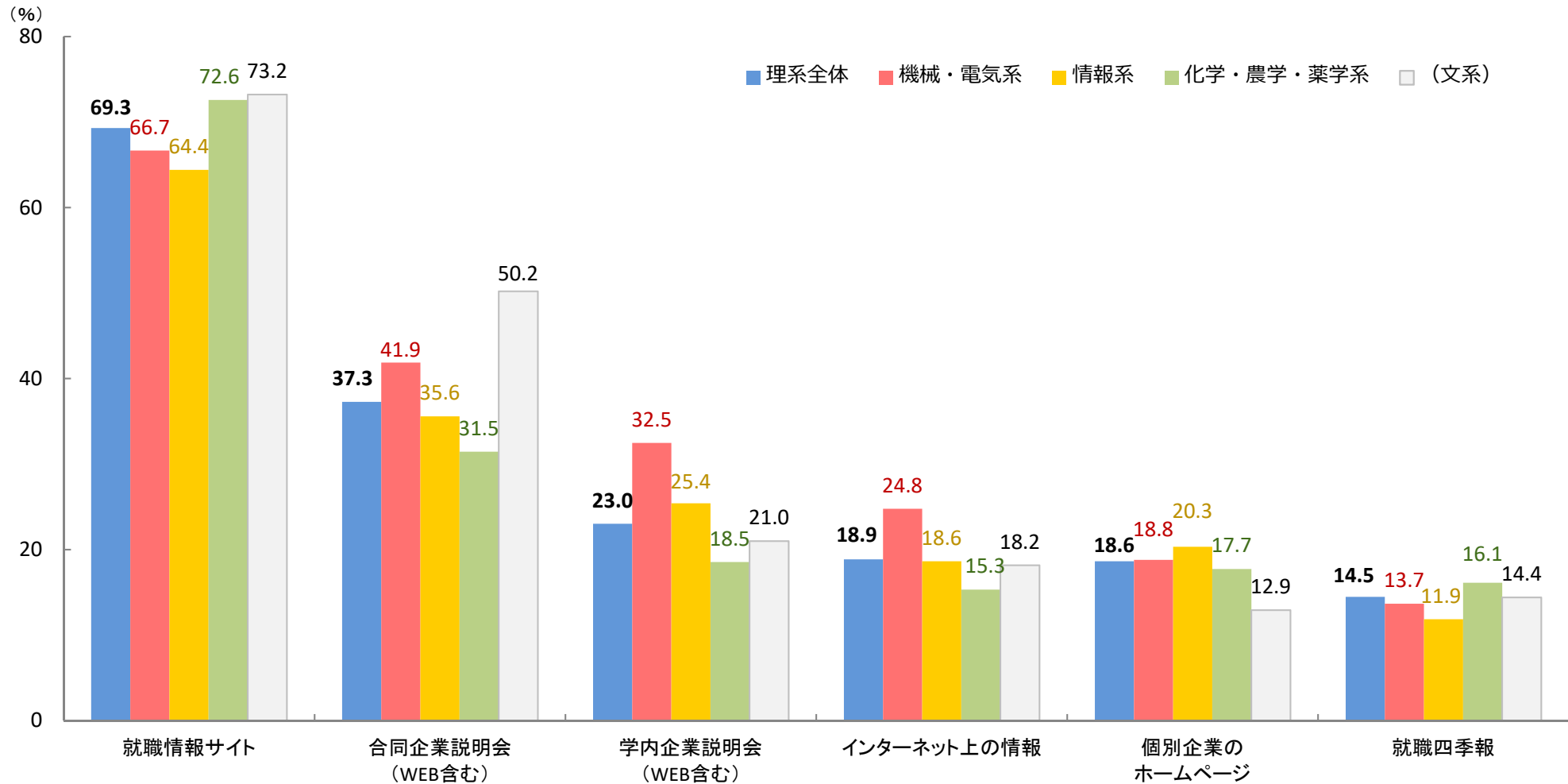
4. 業界研究を始めた時期

- 理系は文系に比べ業界研究の取り掛かり時期が早く、7月時点で4割を超え(43.8%)、10月には6割に達した(64.5%)。
- 機械・電気系は特に早く、7月には過半数に達するなど(52.7%)、他の専攻分野の学生を終始リード。
- 情報系は早い層と遅い層に二分していた様子が見られる。



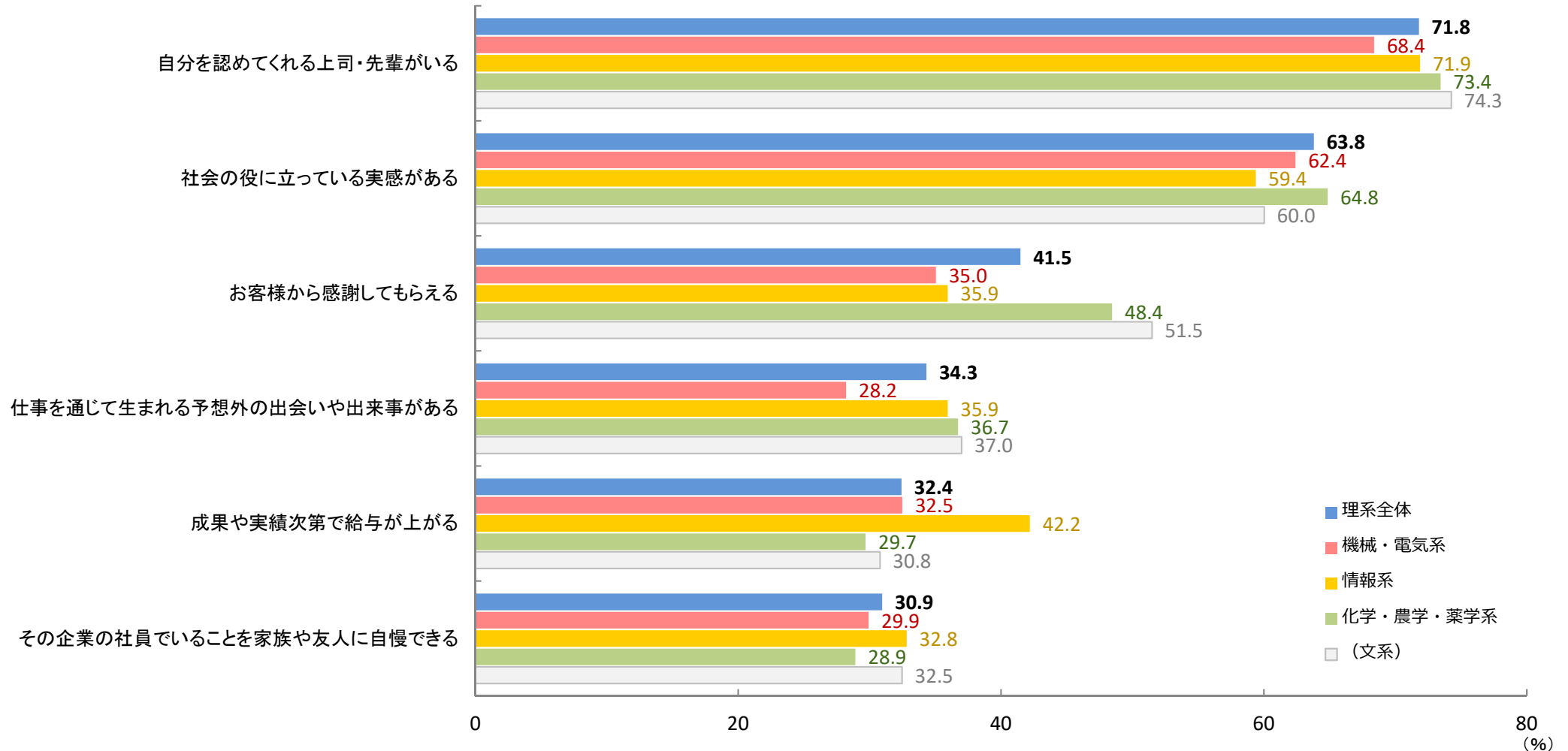
5. 企業探しに有益な情報源

- いずれの属性も「就職情報サイト」が6～7割強で最多。次いで「合同企業説明会」が続く。
- 機械・電気系は「合同企業説明会」(41.9%)や「学内企業説明会」(32.5%)など、他の専攻より高い項目が多い。



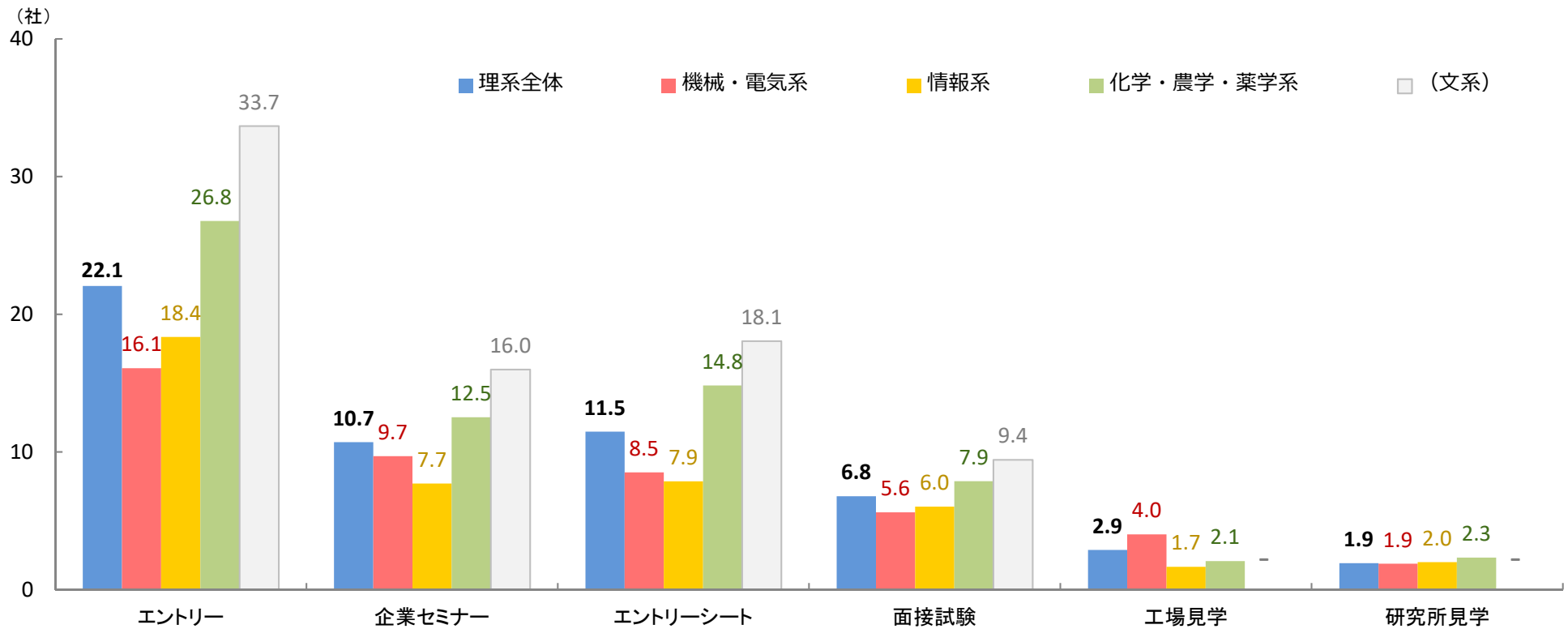
6. 自分にとって「働き甲斐のある企業」

- いずれの属性も「自分を認めてくれる上司・先輩がいる」が最多。
- 化学・農学・薬学系学生は「社会の役に立っている実感がある」「お客様から感謝してもらえる」が他の専攻より高い。
- 情報系学生は「成果や実績次第で給与が上がる」「組織の中で出世している実感がある」が高く、上昇志向が強い。



7. 就職活動量(社数/7月時点)

- 理系学生の社数はすべての活動において文系を下回り、企業を絞って活動する傾向が強い。
- 理系の中でも、機械・電気系、情報系は社数が少なく、化学・農学・薬学系は比較的多いという特徴が見られる。
- なお、前年に比べエントリー数は減ったものの、企業セミナーや面接社数は増加しており、新型コロナウイルス感染拡大後に積極的に活動した様子が見られる。

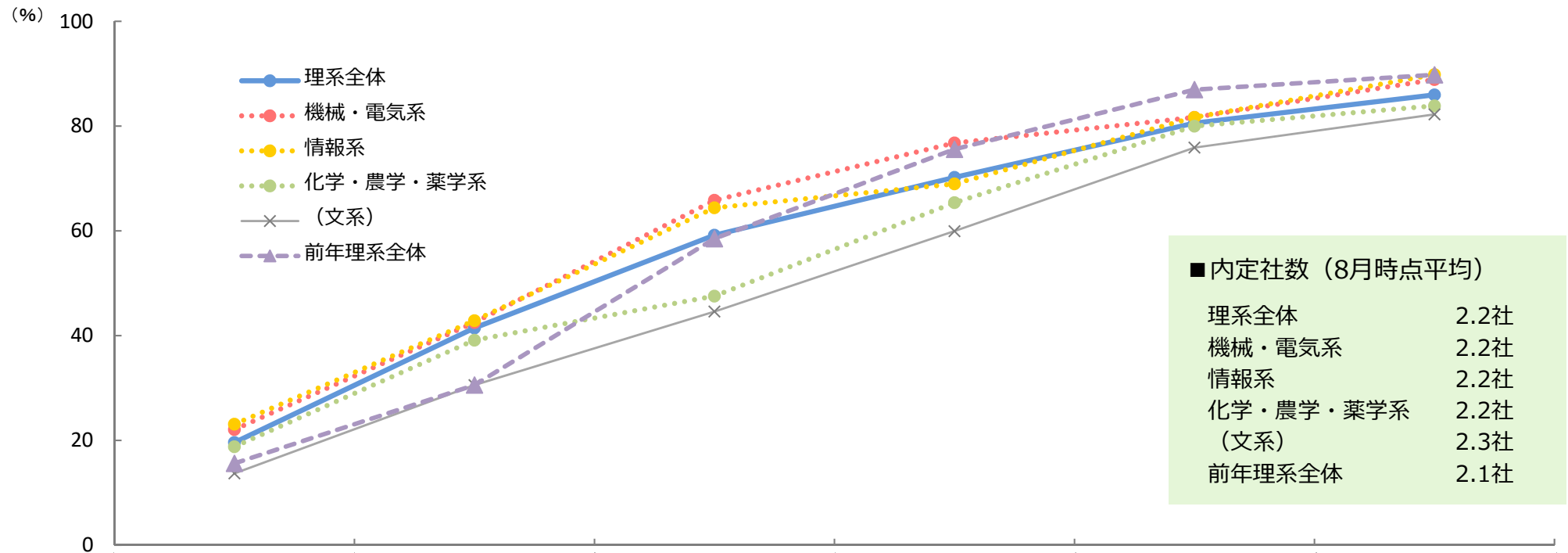


【参考】前年調査(2020年卒者)

理系全体	24.0	8.6	11.7	6.3	2.8	1.9
機械・電気系	17.8	6.9	8.5	5.1	3.0	1.8
情報系	21.3	8.6	8.2	5.3	1.6	1.0
化学・農学・薬学系	32.1	9.5	15.4	7.4	3.3	2.4
(文系)	33.0	13.7	15.4	8.7	-	-

8. 内定率の推移

- 理系は文系に比べ内定獲得のペースが速く、4月～6月まで内定率の文理差は10ポイント以上。特に5月は14.6ポイント差。
- 理系の中でも、機械・電気系と情報系は早期の内定獲得が目立つ。化学・農学・薬学系学生は、文系との差が比較的小さい。
- 理系全体の内定率を2力年で比較すると、4月までは前年を大きく上回り早期化が顕著だったが、5月にほぼ同率になり、6月以降は下回った。コロナ禍で企業の採用活動が停滞した影響が表れている。



	3月1日	4月1日	5月1日	6月1日	7月1日	8月1日
理系全体	19.6	41.4	59.2	70.2	80.6	86.0
機械・電気系	22.0	42.5	65.8	76.8	81.7	88.9
情報系	23.1	42.9	64.4	69.0	81.7	89.8
化学・農学・薬学系	18.8	39.1	47.5	65.4	80.0	83.9
(文系)	13.7	30.5	44.6	59.9	75.9	82.2
前年理系全体	15.6	30.6	58.5	75.6	87.0	89.8

9. 就職決定業界

- 機械・電気系学生の決定業界は、1位「電子・電機」(21.2%)、2位「自動車・輸送用機器」(19.2%)。
- 情報系学生は「情報処理・ソフトウェア・ゲームソフト」に集中しており、3割を超えている(33.3%)。
- 化学・農学・薬学系学生は、1位「医薬品・医療関連・化粧品」(19.6%)、2位「水産・食品」(12.0%)。
- 上位業界は、いずれも専攻分野との関連が見られる。

(%)

	理 系		機械・電気系		情報系		化学・農学・薬学系	
	業界	割合	業界	割合	業界	割合	業界	割合
1	情報処理・ソフトウェア・ゲームソフト	12.6	電子・電機	21.2	情報処理・ソフトウェア・ゲームソフト	33.3	医薬品・医療関連・化粧品	19.6
2	電子・電機	12.1	自動車・輸送用機器	19.2	電子・電機	12.5	水産・食品	12.0
3	建設・住宅・不動産	11.8	機械・プラントエンジニアリング	17.2	通信関連	10.4	素材・化学	9.8
4	機械・プラントエンジニアリング	7.0	情報処理・ソフトウェア・ゲームソフト	8.1	情報・インターネットサービス	8.3	電子・電機	7.6
5	自動車・輸送用機器	7.0	建設・住宅・不動産	4.0	人材紹介・人材派遣	6.3	建設・住宅・不動産	6.5
6	医薬品・医療関連・化粧品	6.7	情報・インターネットサービス	4.0	建設・住宅・不動産	4.2	情報・インターネットサービス	6.5
7	情報・インターネットサービス	4.8	エネルギー	4.0	自動車・輸送用機器	4.2	商社（専門）	6.5

10. 就職決定職種、決定企業規模

- 機械・電気系学生の決定職種は、「研究・開発・設計系」が半数を超え1位(54.4%)。2位は「IT系」(18.9%)。
- 情報系学生は「IT系」に集中しており、7割を超えている(70.2%)。
- 化学・農学・薬学系は比較的分散し、1位「研究・開発・設計系」(39.0%)、2位「生産・製造・品質管理系」(15.9%)、3位「IT系」(13.4%)。
- 理系は文系に比べ大手企業に決定した学生が多い。特に機械・電気系学生においては4割超(44.3%)が5,000人以上の大手に決定。

就職決定職種

(%)

	理系		機械・電気系		情報系		化学・農学・薬学系	
1	研究・開発・設計系	35.0	研究・開発・設計系	54.4	IT系	70.2	研究・開発・設計系	39.0
2	IT系	27.1	IT系	18.9	研究・開発・設計系	19.1	生産・製造・品質管理系	15.9
3	建築・土木設計系	10.6	生産・製造・品質管理系	13.3	専門・スペシャリスト系	4.3	IT系	13.4
4	生産・製造・品質管理系	9.4	専門・スペシャリスト系	5.6	営業系	4.3	専門・スペシャリスト系	11.0
5	専門・スペシャリスト系	6.7	建築・土木設計系	3.3	企画・マーケティング系	2.1	営業系	8.5

就職決定企業の従業員規模

(%)

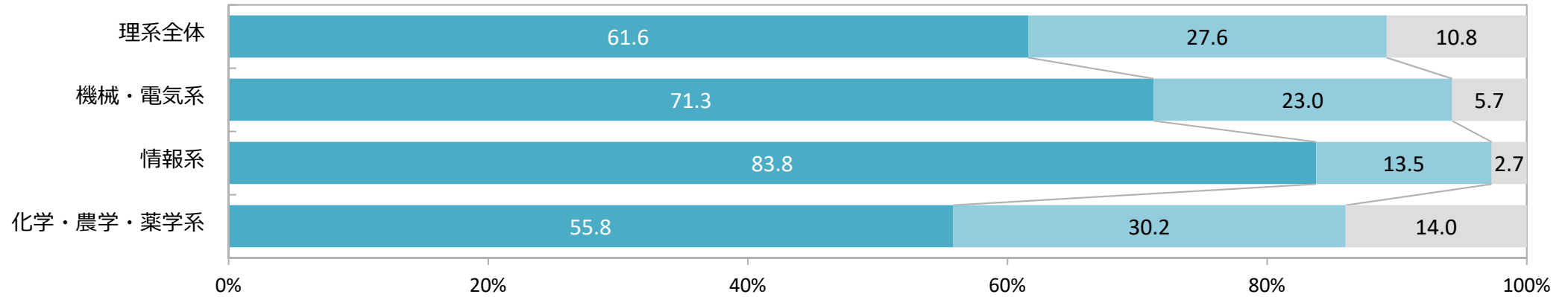
	理系	機械・電気系	情報系	化学・農学・薬学系	(文系)
5,000人以上	33.4	44.3	31.4	30.9	30.6
1,000~4,999人	34.5	32.5	28.6	31.9	30.5
300~999人	20.1	15.1	21.9	21.5	22.6
299人以下	12.0	8.0	18.1	15.7	16.3

11. 就職決定企業への応募ルート、専攻分野との関連

- 理系の約6割(61.6%)が、専攻を活かした理系就職。機械・電気系は約7割、情報系は8割強に上る(71.3%、83.8%)。
- 機械・電気系は「学校・教授推薦」での就職決定者も比較的多く、4割近くを上る(36.8%)。

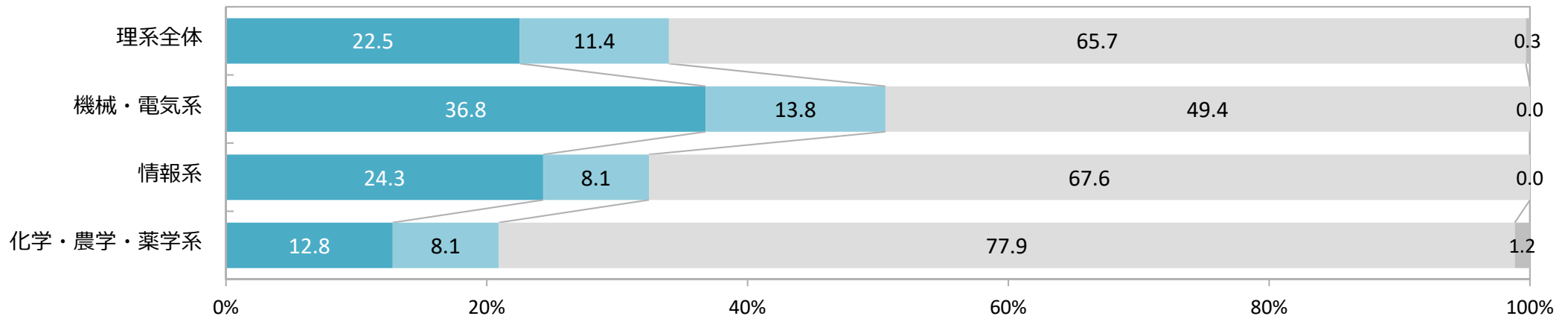
専攻との関係

■ 専攻を活かした理系就職 ■ 専攻とは関係のない理系就職 ■ 文系就職



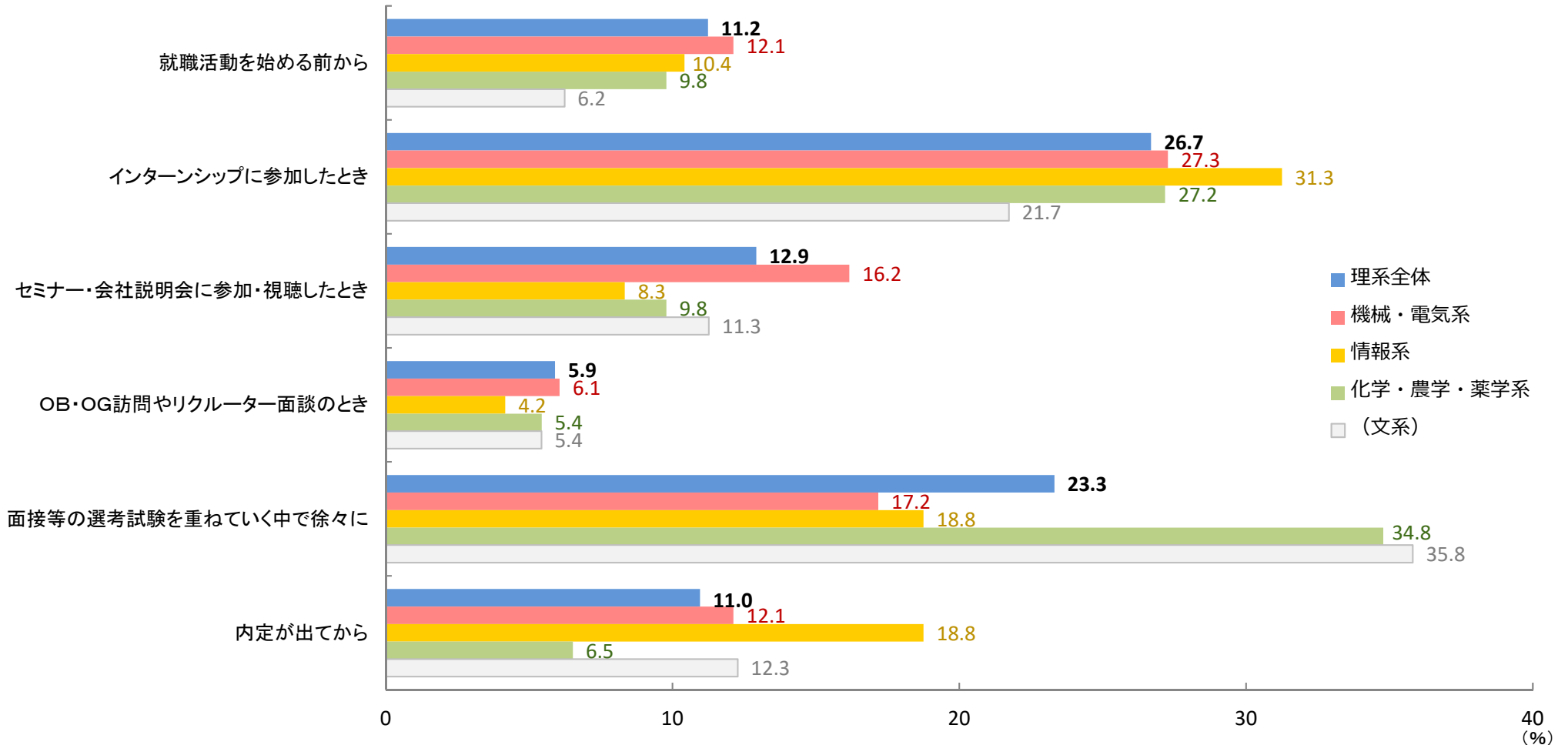
応募ルート

■ 学校・教授推薦 ■ 後付推薦 ■ 完全な自由応募 ■ その他



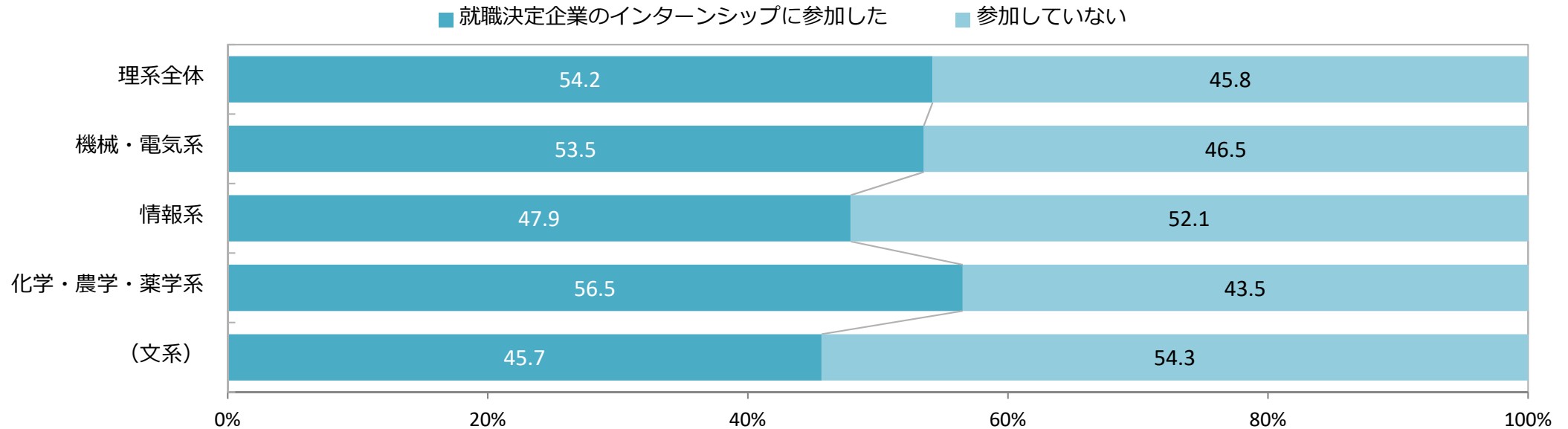
12. 就職決定企業で働きたいと思ったタイミング

- 文系が「選考試験を重ねていく中で徐々に」が最多(35.8%)であるのに対し、理系は「インターンシップに参加したとき」が最多(26.7%)。特に、情報系は「インターンシップに参加したとき」が3割を超え(31.3%)、他の専攻より高い。
- 化学・農学・薬学系学生は、「選考を重ねていく中で徐々に」(34.8%)が高く、文系学生に近い傾向。



13. 就職決定企業のインターンシップ参加状況

- 理系は文系に比べ、就職決定企業のインターンシップに参加していた割合が高め。中でも、化学・農学・薬学系が高い(56.5%)。
- 機械・電気系と情報系は、「5日以上プログラム」に参加していた割合がやや高い(それぞれ15.2%、16.7%)。



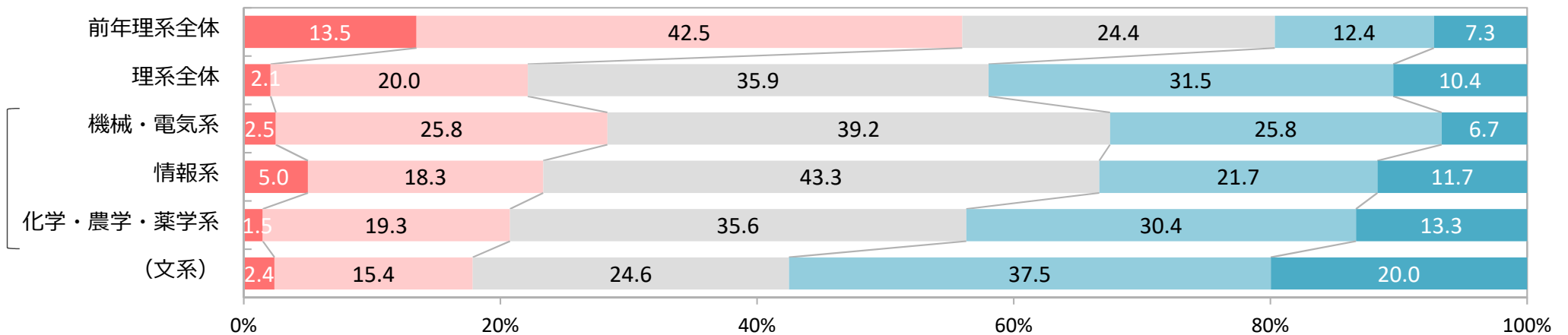
就職決定企業のインターンシップ参加日数 (複数回答)

	理系				(文系)
	理系	機械・電気系	情報系	化学・農学・薬学系	
1日以内のプログラムに参加	33.7	31.3	27.1	35.9	28.6
2~4日程度のプログラムに参加	11.2	10.1	4.2	14.1	15.3
5日以上プログラムに参加	12.6	15.2	16.7	9.8	5.0
就職決定企業のインターンシップに参加していない	45.8	46.5	52.1	43.5	54.3

14. 就職環境の見方(売り手市場観)

- 今年の就職環境を「売り手市場」と見る理系学生は2割程度(計22.1%)。前年調査(計56.0%)の半分以下にとどまり、コロナ禍による市場の急速な変化を感じ取っている様子が表れている。
- 理系の4割(計41.9%)が「売り手市場ではない」との見解を持つが、文系(計57.5%)よりは悲観的でない。
- 機械・電気系、情報系は「売り手市場」と見る割合が比較的高く、内定獲得のペースが早かったこと(10ページ)が市場の見方にも影響しているようだ。

■ 完全に売り手市場だと思う ■ やや売り手市場だと思う ■ どちらでもない ■ あまり売り手市場だと思わない ■ まったく売り手市場だと思わない



[Voice] 理系学生の声

- ・ コロナの影響で、売り手市場から、いきなり買い手市場になったと思う。 <理系女子/化学・農学・薬学系>
- ・ もし新型コロナウイルス感染症がなければ、もう少し納得した就活ができていたのでは、と考えてしまう。 <理系男子/機械・電気系>
- ・ 自分の受けたい企業が採用中止になることがあるのだと感じ、何が起こるか分からないなと思った。 <理系男子/機械・電気系>
- ・ インターンシップに夏から参加したことと、理系の院生ということですんなりと決まった感はある。 <理系男子/情報系>
- ・ 地方の理系就活生は、金銭的・時間的理由や研究との兼ね合いにより厳しい局面もあると感じました。そのため、今年オンライン形式が増えたのはありがたかったです。 <理系女子/化学・農学・薬学系>
- ・ 推薦応募ではあったが、情報系の学生はどの企業からもかなり必要とされているように感じた。 <理系男子/情報系>